

試料・情報利用研究計画書(概要)						
審査委員会 受付番号	2019-1024	利用形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:コホート調査参加者のうち、年齢20歳以上の男女で、腎機能正常者と低下者 20,000人 試料:なし 情報:基本情報、調査票情報(既往歴)、特定健康診査情報、検体検査情報(血液、尿)、メタボローム情報、ゲノム配列情報(尿酸関連遺伝子)	
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	東京薬科大学	
研究題目	腎機能低下に及ぼす尿酸関連分子の役割の解明				研究期間	2020年3月～ 2023年12月
実施責任者	川目 裕	所属	東北メディカル・メガバンク機構			職位 教授
研究目的と意義	尿酸関連遺伝子の機能低下を示す一塩基多型(バリエーション)を指標に腎機能への尿酸関連遺伝子の寄与を明らかにすることを目的とします。					
研究計画概要	健康調査情報より得られる腎機能維持者及び腎機能低下者を対象に尿酸トランスポーター関連遺伝子の多型の情報から尿酸トランスポーターの機能を推定し、対象者の遺伝因子と尿毒症物質であるインドキシル硫酸やeGFRなどの経時的な臨床検査値を対応させた前向きコホート分析を行います。尿酸トランスポーターの遺伝因子と腎機能の経時的な変化との関連性を、統計学的手法を用いて解析します。					
期待される成果	①尿酸関連遺伝子と腎機能の関係性を解析することにより、高尿酸血症・低尿酸血症、または尿酸関連分子の機能と腎機能の遺伝的関連性が明らかとなります。遺伝学的検査によって尿酸関連分子の機能が推定された研究対象者は、将来的な腎機能低下のリスク群か否かの判別が可能となります。 ②臨床検査、遺伝学的検査の実施により知れた血清尿酸値及び尿酸トランスポーターの一塩基多型の情報から、腎機能低下のリスク群か否かの判別が可能となります。					
これまでの倫理 審査等の経過	2020年3月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	ヒトを対象とする医学系研究の倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針、ToMMoセキュリティポリシーの他、別途締結する研究契約を遵守して研究を遂行します。また、情報は、高度なセキュリティが担保されたスーパーコンピュータ内で管理し、共同研究機関はToMMo内又は遠隔セキュリティエリアから情報にアクセスして解析を行います。					
その他特記事項	東北メディカル・メガバンク事業、東京薬科大学研究費					
* 公開日	令和2年4月1日					